

ドル/円相場のトレード戦略

■ 中長期展望

【ドル/円 週足】



2017年は前年のトランプ・ラリーの流れを受け、年初に118円60銭の高値をつけました。

2016年12月にFRBが利上げを実施、堅調な足取りを続ける米国経済を前提に本年も継続的に利上げが実施されると予想されること、トランプ新大統領の経済政策（大規模なインフラ投資、大幅減税）への期待を背景にドルが上昇するシナリオが市場の大勢を占めていました。

しかし、実際には年初の118円台が今年の高値となり、ドルは軟化し4月には108円13銭の安値をつけています。

ドル安の背景には、米新政権の経済政策実施が遅延していること、シリア攻撃に端を発した地政学リスクの高まりを受けた北朝鮮リスクの顕在化、さらにはトランプ政権のロシアゲート疑惑などが挙げられました。

その後は114円37銭まで値を戻すも、108円81銭まで下落、114円49銭まで再浮上後再び110円割れとなり、9月に入ってから107円32銭まで安値を更新しました。

9月に入ってからドル安・円高の背景には、米国のハリケーンによる経済への打撃などを背景としてFRBが年内後一回以上の利上げを行うとの期待が後退したことや北朝鮮リスクの高まりが挙げられるでしょう。

北朝鮮は、大陸間弾道ミサイルの発射や大規模な核開発実験など、米国をはじめとした国際社会への挑発を強めており、軍事的緊張の高まりがマーケットをリスク回避姿勢へと向かわせているとい

ドル/円相場のトレード戦略

えます。

ただし、地政学的リスクからのリスク回避による円高は短期的には大きな変動要因といえるものの、中期的な為替相場の方向性は米国のファンダメンタルズに左右されると考えられ、実際に米国のハリケーンによる悪影響が予想よりも小さいものにとどまるとの観測が出ると、ドルは113円台を回復する動きとなりました。

年末に向けては、9月FOMCで米国経済の堅調推移が確認され、さらにはトランプ政権による減税政策発動が現実味を帯びてきたためドルの上昇基調継続が期待され、これまで続いた110円～115円の取引レンジが上方修正される可能性が高まってきました。

115円をクリアの上抜くと116円半ばが視野に入り、この水準を抜けると本年高値118円がターゲットようになってくるでしょう。

■短期展望

先週は、週初114円台前半でスタート後、損失確定のドル買いを巻き込み3月15日以来の高値となる114円73銭まで吹き上がる動きとなりました。しかし、114円半ば以上での滞空時間は短く、ドルの上値の重い印象が残る動きとなりました。

その後、米上院共和党が法人税減税の先送り（1年間）を検討しているとの報道を受けてドル売りが優勢となり、113円前半まで下押しし、113円半ばで週を越えています。

今週も、113円台を中心とした方向感のない相場が続きそうです。

米国経済の足取りは堅調であり追加利上げ観測がドルの下支え要因となりますが、米税制改革やタカ派FRB議長の誕生といった期待は肩透かしに終わっており、一段のドル上昇には力不足といえます。

新たな材料が出てこない限り、112円半ばから114円半ばでのレンジ取引が続きそうです。